

DAIKIN エアコン2027年問題

2027年問題とエアコン価格

「2027年問題」とは、2027年4月に予定されている家庭用エアコンの省エネ基準の見直しをきっかけに、エアコンの価格やラインナップが変わるのではないかと懸念されていることを指します。

省エネ基準は国によって定められており、2027年度以降はより厳しくなる方向で見直される予定です。

これにより、エアコン購入の際に、

***省エネ基準を満たさない低価格帯のエアコンが購入できなくなる**

***省エネ性の高いエアコンしか販売できないため、標準タイプの本体価格が上がる**

といった影響が出る可能性があります。こうした変化から「買替えは今のうちがいいの?」「エアコンが値上がりするのでは?」といった疑問につながり、「2027年問題」として話題になっています。

エアコン購入は早めの検討がおすすめ

エアコンの販売状況や本体価格の変化に伴い、在庫や設置工事にも影響が出る可能性があります。

2027年問題によりエアコンの駆け込み購入が増えることが予想され、需要が集中した場合には、

***希望する機種・モデルが品薄になる**

***工事依頼が増え、日程調整に時間がかかる**

といった状況が想定されます。こうした動きを踏まえ、2026年以降は早めにエアコン購入を検討しておくことをおすすめします。

特に、現在お使いのエアコンが製造から10年以上経過している場合は注意が必要です。交換部品の製造が終了しており、修理ができない可能性もあるため、買替え検討のタイミングです。

R SERIES うるさらX



うるさらXのおすすめポイント

省エネ

暮らしに役立つ省エネ・節電技術を搭載。

目標年度2027年省エネ基準を達成 9.0kWクラスを除く

NEW プレミアムPIT制御

小さな能力が出せるので、室温がさらに安定します。

NEW エコブースト制御

学習効果で、高効率でムダなく立ち上げます。

節電自動運転

室内が設定温度・しつどに到達し安定すると、消費電力を抑えて運転します。

Rシリーズ

無給水加湿と気流で快適
節電自動運転搭載のフラッグシップモデル

省エネ性を考えてエアコンを選ぶなら
目標年度2027年省エネ基準を達成 9.0kWクラスを除く

NEW 高い省エネ性能を実現する高集積熱交換器 4.0kW(200V)・5.6kWクラス

高集積熱交換器

通風経路を確保して熱交換 機内の配管スペースの小型化により通風経路を拡大

配管スペースの小型化

優れた省エネ性能を誇るRシリーズがおすすめです。

リビングや寝室、仕事部屋など、長時間エアコンを使用するなら省エネ性の高さがポイント。目標年度2027年省エネ基準達成モデルなら、高い省エネ性を発揮します。

DAIKIN

業務用エアコン(店舗・オフィスエアコン)

室内機 天井埋込形エアコン「S-ラウンドフロータイプ」製品特長

天井埋込形エアコン
S-ラウンドフロータイプ

360°全周吹出しですみずみまで心地よく

これまで一般的だった4方向吹出しを8方向に増やすことで、360°吹出しが可能に。ドラフト感を和らげながら部屋全体に気流を届けます。



ダブルセンサーが心地よい空間を守る



冷房時

床面温度を検知して冷やしすぎを軽減。冷やしすぎないので省エネに繋がります。



① 床温度センサーが天井付近よりも温度が低い床面温度を検知。

② 床面の温度を検知して、人付近の温度を自動で計算。

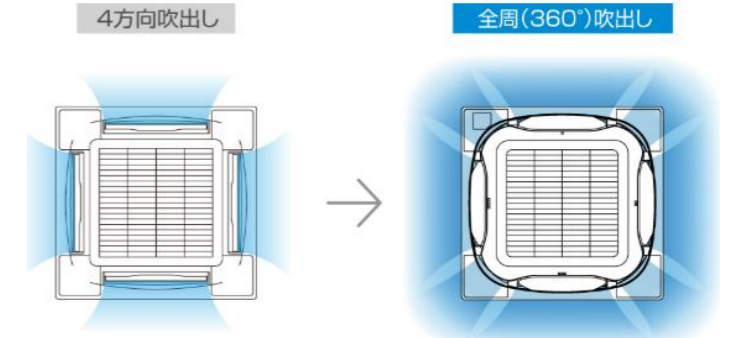
さらに、人検知センサーが人のいる場所を検知して、風あたり(ドラフト)^{※2}を軽減。

室外機 FIVE STAR ZEAS

過酷な夏を支えるのは、確かな強さと総合性能

室外機の強さ 猛暑の中でも運転し続ける

NEW MODEL
FIVE STAR ZEAS



人検知センサー

検知エリアの目安

天井高さ	2.7m	3.5m
検知範囲(直径) ^{※1}	約8.5m	約12m

4つのエリア(A・B・C・D)で個別に人の在否を検知

4つのエリアを同時に監視

床温度センサー

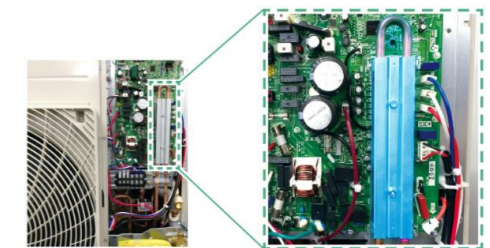
検知エリアの目安

天井高さ	2.7m	3.5m
検知範囲(直径) ^{※3}	約11m	約14m

床面温度を検知
↓
検知範囲の平均床温度を検出

近年は35°Cを超える猛暑日が増え、居室の冷房運転はますます過酷になっています。

さらに日本の夏は、高温だけでなく高湿度。こうした環境では天井裏にも負荷がかかり、結露によるトラブルが起こることがあります。新しいFIVE STAR ZEASが安心運転を支えます。



冷媒冷却でプリント基板を保護し、高外気温でも高い冷房能力を維持します。